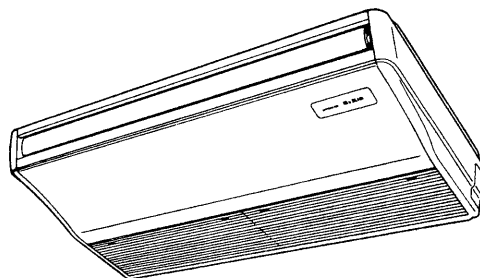


PCFY-J・GMシリーズ 据付工事説明書

本説明書は室内側ユニットの据付方法を記載してあります。
 室外側ユニットの据付方法及びマルチのシステム関連の項目は、室外側ユニットの据付工事説明書に記載されております。
 リモコンは別売部品となっておりユニットリモコンとネットワークリモコンの2種類があります。



ヒータレス	PCFY-J45, J56, J71, J80, J90, J112, J140, J160GM形
ヒータ付	PCFY-J45, J56, J71, J80, J90, J112, J140, J160GMH形

- この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。据付の前に、室外ユニット付属の説明書と併せて、本説明書を必ずお読みください。

[もくじ]	[ページ]
※安全のために必ず守ること	2 3
※室内ユニット同梱付属品	4
1. 据付けの前に	4
2. 据付け場所の選定	4
3. 据付け前の準備	5 6
4. ユニットの据付け	7
5. 冷媒配管	8
6. ドレン配管	9
7. 電気配線工事	10 11 12
8. 試運転	13
9. 高圧ガス明細書	14

〔据付される方へのお願い〕

室外ユニット側に据付報告書と保証書がセットになって入っていますので、据付をされる方は必ず全項目を書き入れ捺印の上、下記宛にご報告願います。保証書だけお客様に渡してください。

据付報告書と保証書の配布方法は次のとおりです。

- 据付報告書(A)……貴店の控
 (B)……特約店、販売会社の控
 (C)……販売会社経由三菱電機(営業所)用
 (D)……販売会社経由三菱電機(製作所)用

保証書……お客様控

不明の点がありましたら、三菱電機の担当営業所へご照会ください。

安全のために必ず守ること

- 据付工事は、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、確実にこなしてください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

△警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの。
△注意	誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの。

- 据付工事完了後、試運転を行ない異常がないことを確認すると共に、取扱説明書にそって、お客様に「安全のために必ず守ること」や使用方法、お手入れの仕方等を説明してください。
- また、この据付工事説明書は取扱説明書と共に、お客様で保管いただくように依頼してください。
- また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方にお渡しいただくよう依頼してください。

警告

据付けは、販売店または専門業者に依頼してください。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

据付けは、重量に十分に耐える所に確実にこなしてください。
強度が不足している場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。

配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事をこなしてください。
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因となります。

ドレンアップメカ、高性能フィルターなどの別売品は、必ず、当社指定の製品を使用してください。
また、取付けは専門の業者に依頼してください。ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

改造は絶対にしないでください。また、修理は、お買上げの販売店にご相談ください。
修理に不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。

設置工事終了後、冷媒ガスが洩れていないことを確認してください。
冷媒ガスが室内に洩れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。

作業中に冷媒ガスが洩れた場合は、換気してください。
冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。

据付工事は、この据付工事説明書に従って確実にこなしてください。
据付けに不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。

室内外ユニットの端子盤カバー（パネル）を確実に取付けてください。
端子盤カバー（パネル）取付けに不備があると、ほこり・水などにより、火災・感電の原因になります。

据付けや移設の場合は、冷凍サイクル内に指定冷媒(R-22)以外のものを混入させないでください。
空気などを混入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂などの原因になります。

小部屋へ据付ける場合は万一冷媒が洩れても限界濃度を超えない対策が必要です。
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付けてください。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。

エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者にご相談ください。
据付けに不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。

据付けをする前に

注意

可燃性ガスの洩れる恐れがある場所への設置は行なわないでください。
万一ガスが洩れてユニットの周囲にたまると、発火の原因になることがあります。

特殊環境には、使用しないでください。
油（機械油を含む）、蒸気、硫化ガスなどの多い場所で使用すると性能を著しく低下させたり、部品が破損したりする場合があります。

病院、通信事業所などに据付けされる場合は、ノイズに対する備えを充分に行なって施工してください。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤動作や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器ある場合は通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音などの弊害の原因になることがあります。

食品・動植物・精密機器・美術品の保存等特殊用途には使用しないでください。
食品の品質低下等の原因になることがあります。

濡れて困るものの上にユニットを据付けしないでください。
湿度が80%を超える場合やドレン出口が詰まっている場合は、室内ユニットからも露が落ちる場合もあります。また、暖房時には室外ユニットよりドレンが垂れますので、必要に応じ室外ユニットも集中排水工事をしてください。

据付け（移設）・電気工事をする前に

⚠ 注意

アースを行なってください。

アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。

電源配線は張力がかからないように配線工事をしてください。

断線したり、発熱・火災の原因になります。

正しい容量のヒューズ以外は使用しないでください。

大きな容量のヒューズや針金・銅線を使用すると故障や火災の原因になります。

製品の運搬には、充分注意してください。

20kg以上の製品の運搬は、1人でしないでください。製品によってはPPバンドによる梱包を行っていますが、危険ですので運搬の手段に使用しないでください。熱交換器のフィン表面で切傷する場合がありますので、素手で触れないように注意してください。包装用のポリ袋で子供が遊ばないように、破いてから廃棄してください。窒息事故等の原因になります。室外ユニット等吊りボルトによる搬入を行なう場合は、確実に4点支持で実施してください。3点支持等で運搬・吊下げしますと不安定となり、落下の原因になります。

長期使用で据付台等が傷んでいないか注意してください。

傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、けが等の原因になります。

エアコンを水洗いしないでください。

感電の原因になることがあります。

設置場所によっては漏電ブレーカの取付けが必要です。

漏電ブレーカーが取付けられていないと感電の原因になります。

電源配線は、電流容量、規格品の配線にて工事をしてください。

漏電や発熱・火災の原因になります。

ドレン配管は、据付工事説明書に従って確実に排水するよう配管し、結露が生じないように保温してください。

配管工事に不備があると、水漏れし、家財等を濡らす原因になります。

ドレン配管の断熱は結露しないように確実に行ってください。

不完全な断熱施工を行なうと配管等表面が結露して露タレ等が発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因となります。

梱包材の処理は確実に行ってください。

梱包材には「クギ」等の金属あるいは、木片等を使用していますので放置状態にしますとさし傷などのけがをする恐れがあります。

試運転をする前に

⚠ 注意

運転を開始する12時間以上前に電源を入れてください。

故障の原因になることがあります。シーズン中は電源を切らないでください。

パネルやガードを外した状態で運転をしないでください。

機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるけがの原因になります。

運転中の冷媒配管に素手で触れないでください。

運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や火傷になる恐れがあります。

吹き出口・吸込口の近くにものを置かないでください。

能力が低下、または運転が停止することがあります。

濡れた手でスイッチを操作しないでください。

感電の原因になることがあります。

エアフィルタを外したまま運転しないでください。

内部にゴミが詰まり、故障の原因になることがあります。

運転停止後、すぐに電源を切らないでください。

必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

室内ユニット付属品

下記の付属品があります。(吸込グリルの内側に収納)

①ワッシャー 4ヶ	②パイプカバー 1ヶ 大(ガス管用)	③パイプカバー 1ヶ 小(液管用)	④バンド 4ヶ	⑤ジョイントソケット 1ヶ "UNIT"の表示	⑥ソケットカバー 1ヶ	⑦ドレン配管カバー 1ヶ
--------------	--------------------------	-------------------------	------------	-------------------------------	----------------	-----------------

1. 据付けの前に

ユニット運搬・据付け等のとき、ユニットに傷をつけないようにしてください。

2. 据付け場所の選定

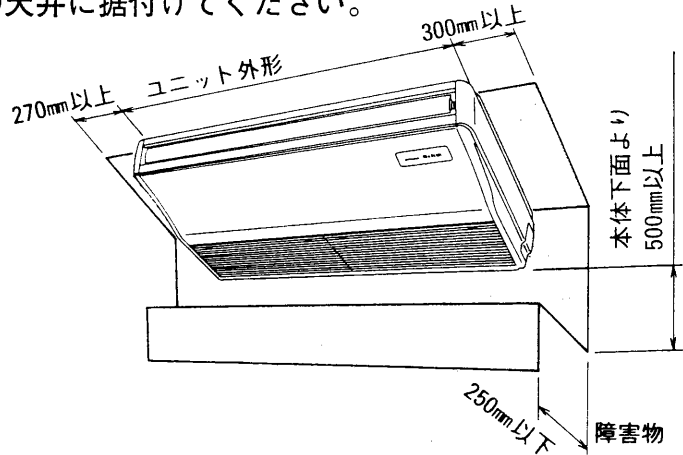
- 吹出し空気が部屋全体に行き渡るところ。
- 据付け・サービス時の作業スペースが確保できる場所。【図1】
- 侵入外気の影響のないところ。
- 吹出し空気、吸込み空気の流れに障害物のないところ。
- 油の飛沫や蒸気のないところ。
- 粉の飛散のないところ。また、多量の蒸気のないところ。
- 酢(酢酸)を多量に使用しないところ。
- 可燃性ガスの発生・流入・滞留・洩れの恐れのないところ。
- 高圧配電線や高周波を発生する機械(高周波加工機等)のないところ。
- テレビ、ラジオより1m以上離れたところ(映像の乱れや雑音が生じることがあります)。
- 蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れたところ。
(ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなります。)
- 吹出し口側に火災報知器(センサー部)が位置しないようにしてください。
(暖房運転時に吹出し温風により火災報知器が誤動作する恐れがあります。)
- 酸性の溶液などを頻繁に使用するところは避けてください。
- 特殊なスプレー(イオウ系)などを頻繁に使用するところは避けてください。
- 海浜地区など特に塩分の多いところは避けてください。
- 積雪により室外ユニットが塞がれるところは避けてください。

※ユニットの重量に、充分耐える強固な構造の天井に据付けてください。



警告

据付けは、重量に充分耐える場所に
確実に行なう。
● 強度不足の場合は、ユニットの落下により、
ケガの原因になります。



必要な据付け・サービススペース

【図1】

◆ 室内外組合せ

室内ユニットと室外ユニットの組合せは室外ユニット側の据付工事説明書を参照ください。

◆ 複数台設置される場合のお願い (グループ制御含む)

据付工事・サービスメンテナンス時に個々の室内・室外ユニットの組合せや、グループ制御時のユニットアドレス(ユニット号機)の確認がしやすいように、室内ユニットの製品名板に組合せ番号・記号が記入できますので利用ください。

◆ 別売部品の取付け



ドレンアップメカ、高性能フィルタ等の別売部品は必ず当社指定の製品を使用してください。
また、取付けは専門の業者に依頼してください。ご自分で取付けされ不備があると水漏れ、
感電、火災等の原因になります。

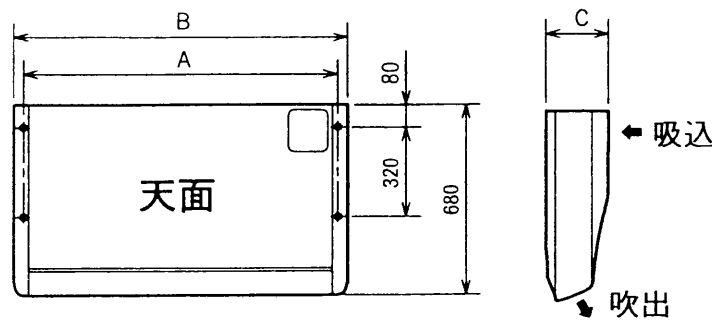
3. 据付け前の準備

●吊ボルトピッチ・各配管・電線取出穴の位置関係

(単位mm)

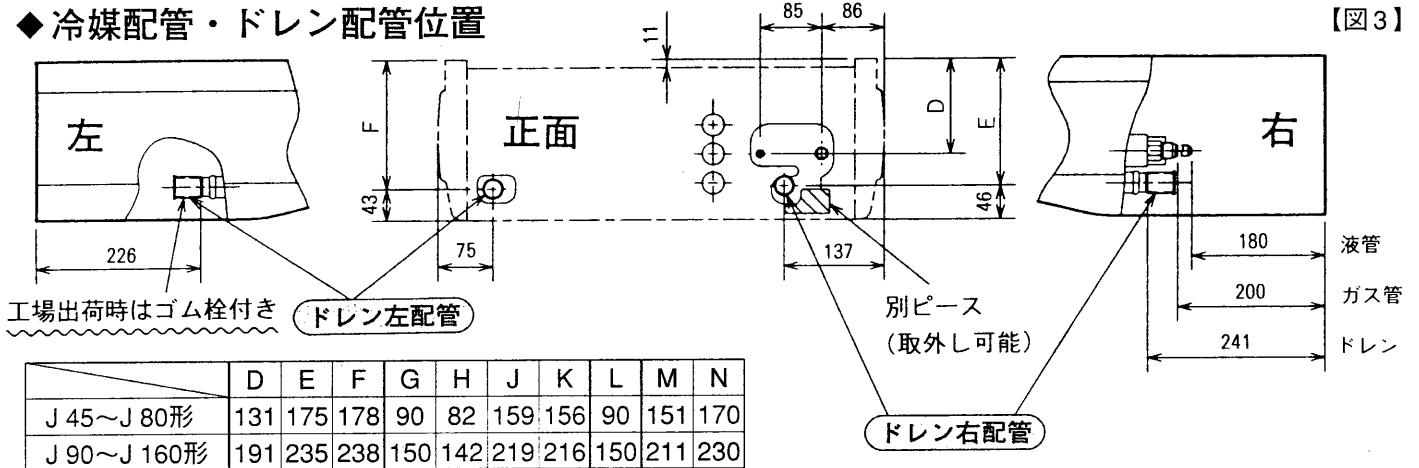
◆吊ボルトピッチ

	A	B	C
J 45~J 56形	933	1000	221
J 71~J 80形	1240	1310	221
J 90~J 112形	1240	1310	281
J 140~J 160形	1547	1620	281



【図2】

◆冷媒配管・ドレン配管位置

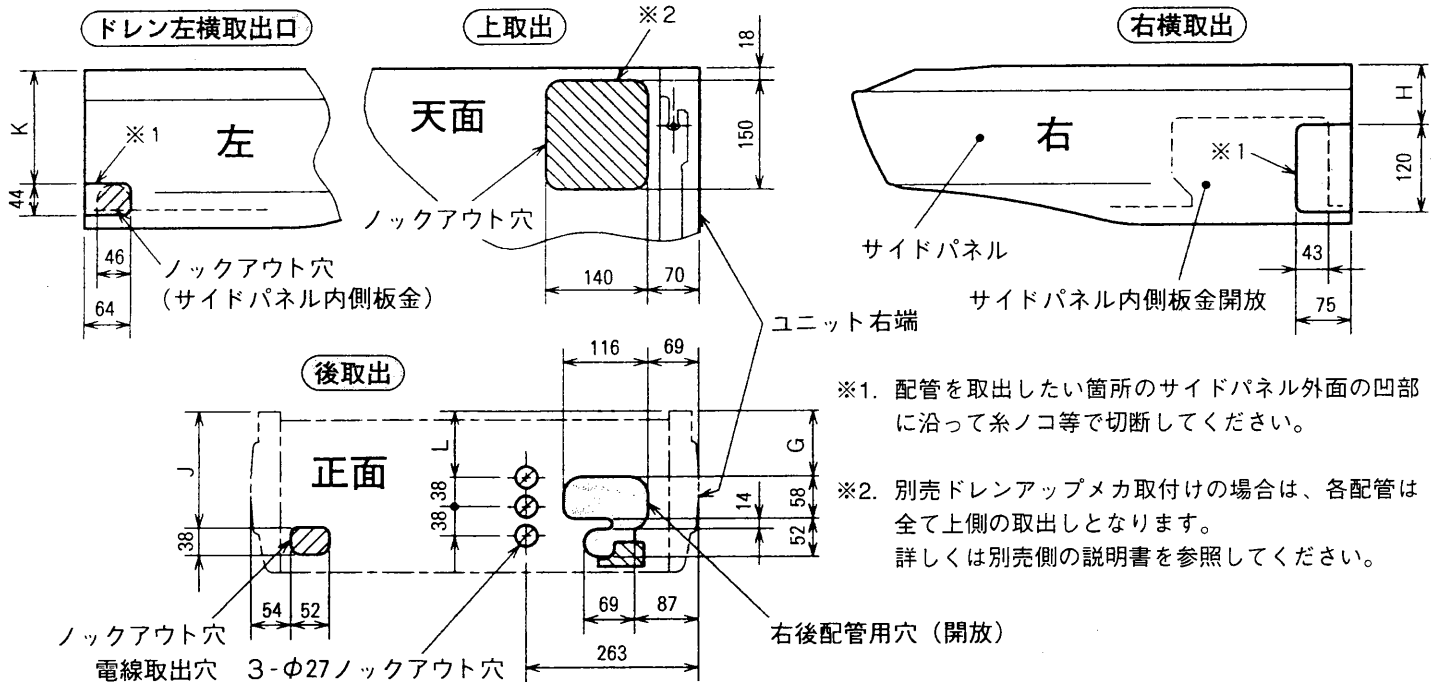


【図3】

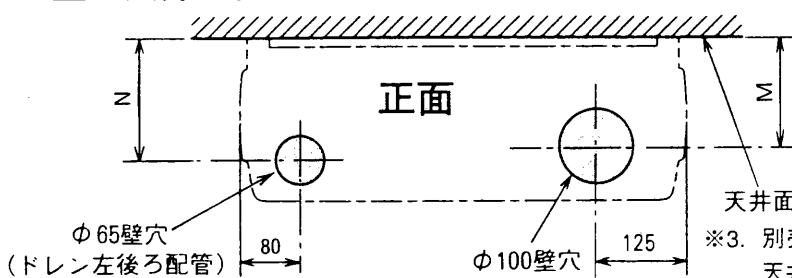
◆ユニット穴位置

(冷媒配管・ドレン配管・電線取出穴)

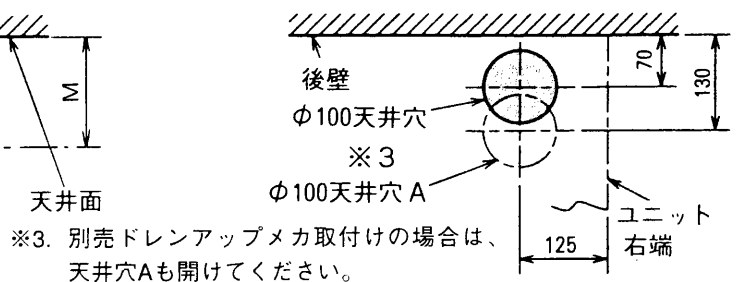
【図4】



◆壁・天井穴位置 <ユニット正面から見る>



<ユニット上から見る> 【図5】



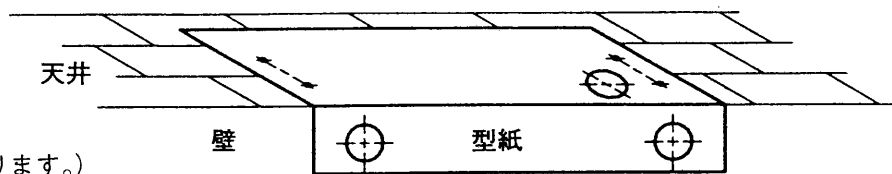
● 据付け前の準備

(単位mm)

◆ 吊ボルト・配管位置の設定

【図6】

- 据付用型紙を使用して、吊ボルト・配管穴位置を決定し穴あけを行なってください。



(内容詳細は、型紙に印刷されております。)

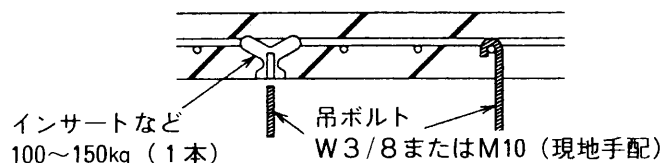
◆ 吊り下げ構造 ※吊り下げ箇所は強固な構造にします。また、ダクター等を利用すると吊り下げが容易です。

【木造・簡易鉄筋の場合】

- 小屋梁（はり・平屋建て）または2階梁（2階建て）を強度メンバーとしてください。
- ユニット吊り下げには丈夫な角材を用いてください。
梁間が 90cm以下の場合＝6cm角以上の角材
梁間が 180cm以下の場合＝9cm角以上の角材

【鉄筋の場合】

- 下図の方法で吊ボルトを固定するか、またはアングル・角材などを利用して吊ボルトを取付けます。

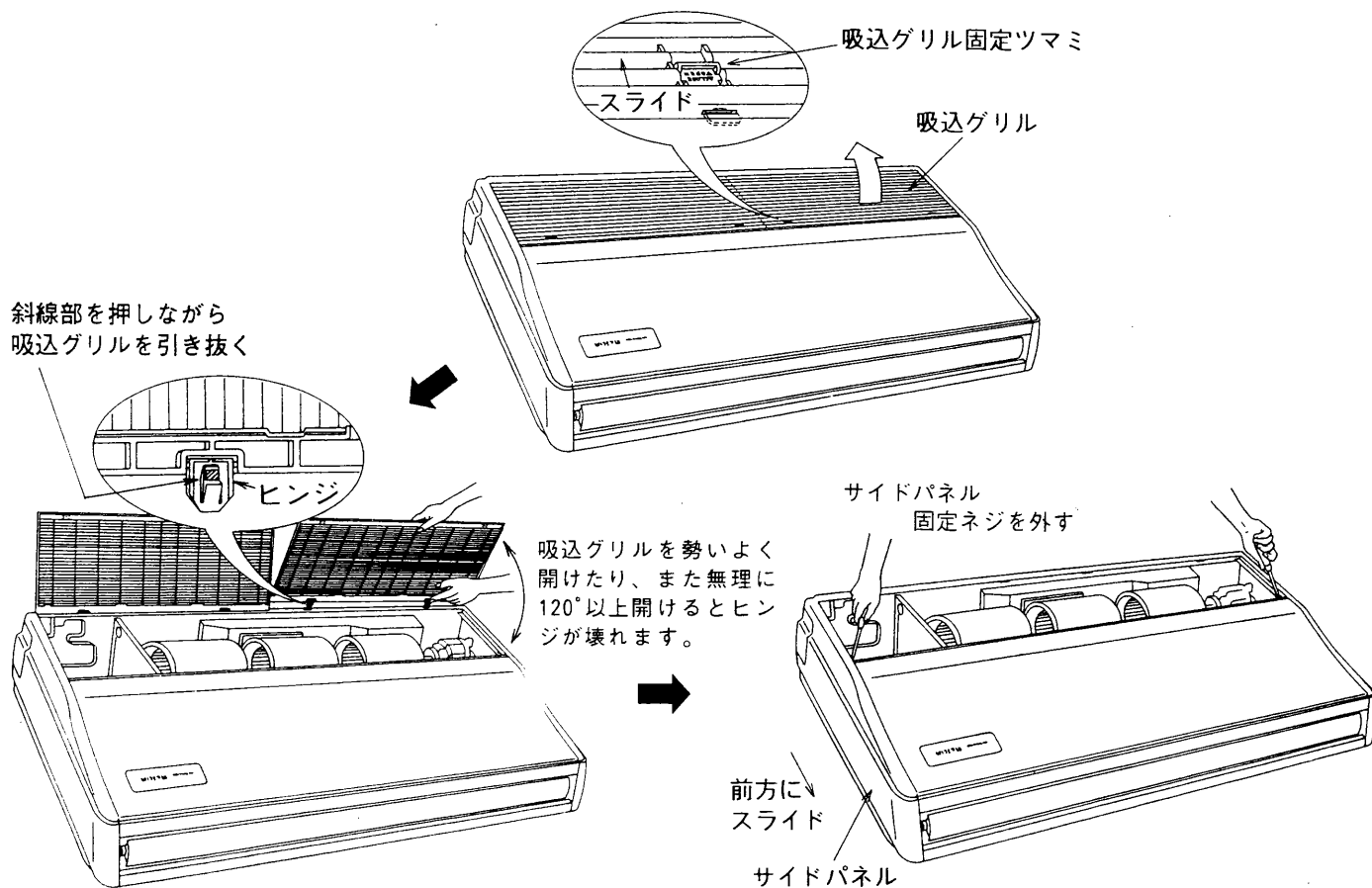
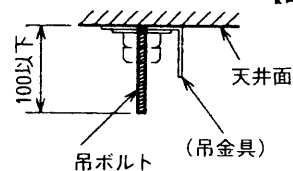


◆ 室内ユニットの準備

【図7】

作業手順

1. 吊ボルトの設置（ボルトは、W3/8またはM10を現地手配してください）
 - 天井面からの長さを予め調整してください。（100mm以下）【図7】
2. 吸込グリル取外し
 - 吸込グリル固定ツマミ（2ヶ所）を後方にスライドし、吸込グリルを開く。
 - 吸込グリルを開いた状態にし、後部ヒンジ（2ヶ所）のツメ部を押して吸込グリルを引抜く。
3. サイドパネル取外し
 - サイドパネル固定ネジ（左右各1本）を外した後にサイドパネルを前側にスライドして取外す。



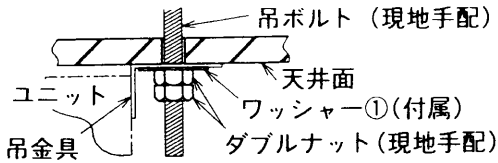
4. ユニットの据付け

(単位mm)

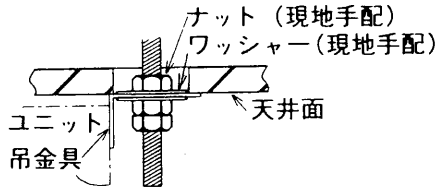
※天井材の有無により吊金具の固定方法が変わりますので事前に確認してください。

【天井材がある場合】

【図9】

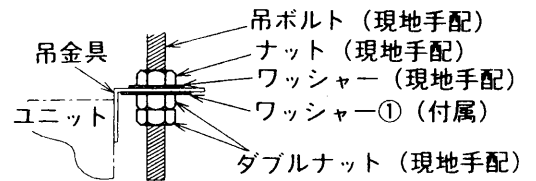


※吊金具下の締付けナットを締め上げて天井がもち上がる場合は、右図の固定としてください。



【ユニット宙吊 (天井材等無し) の場合】

【図10】



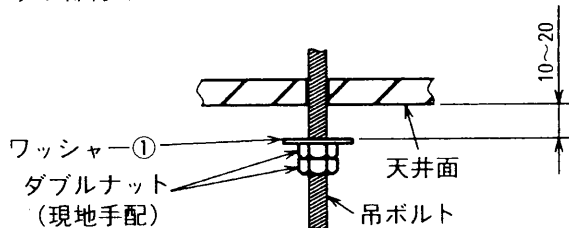
据付け方法は下記のAまたはBの2つがあります。(説明は天井がある場合を示す)

A. 本体を直接吊り下げる方法 (ダイレクト据付け)

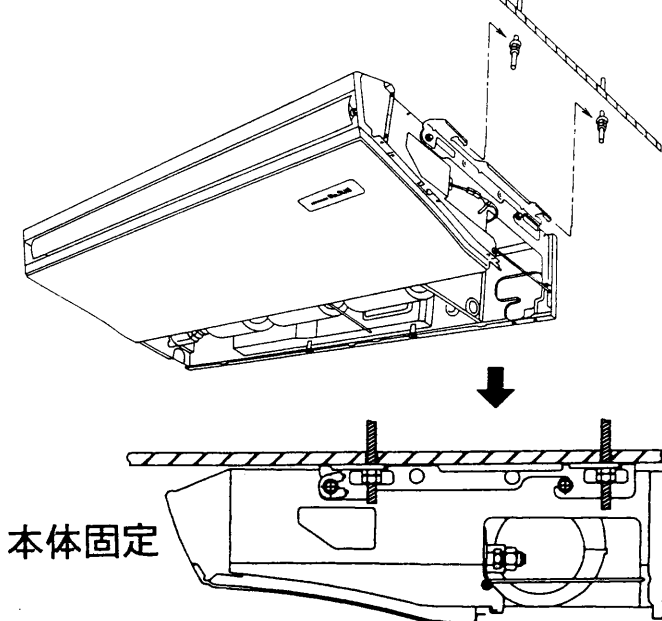
作業手順

1. ワッシャー① (付属) とナット (現地手配) の取付け
2. ユニットの吊ボルトにセット (引っ掛け)
3. ナット締め付け

【図11】



本体セット



本体固定

B. 吊金具を先に天井に取付ける方式 (ワンタッチ据付け)

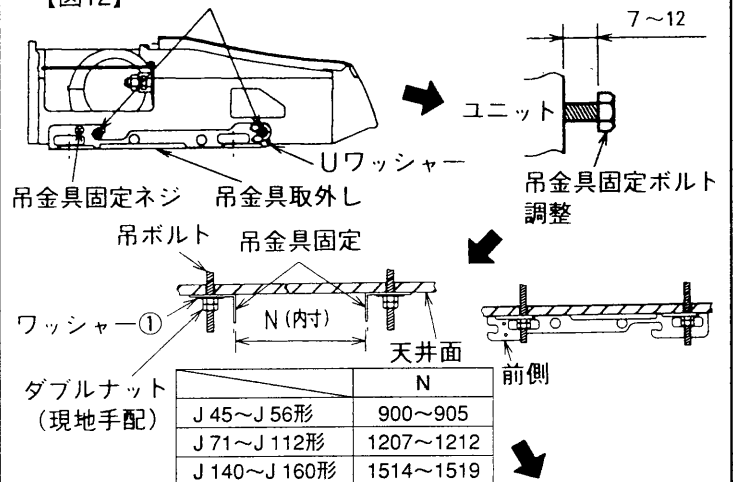
作業手順

1. ユニットから吊金具とUワッシャー及び吊金具固定ネジ取外す
2. ユニットの吊金具固定用ボルト調整
3. 吊ボルトに吊金具を固定
4. 吊金具が前後左右水平か確認
5. ユニットの吊金具にセット (引っ掛け)
6. ユニットの吊金具に固定

(この時、吊金具固定ネジの締め付け)

※Uワッシャー (ユニット落下防止) を必ず取付け

【図12】 吊金具固定ボルト



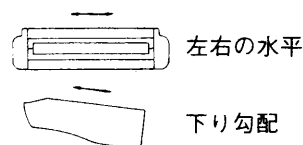
本体セット

本体固定

Uワッシャー

◆ ユニットの据付け状態を確認

- ユニットの右と左側が水平になっているか確認
- ユニットが下り勾配になっているか確認



5. 冷媒配管

- 冷媒配管からの水タレ防止のため、十分な防露断熱工事を施工してください。
- 右後配管を行なう場合は、別ピース (図13) を取外すと作業がやり易くなります。
- 市販の冷媒配管を使用の場合は、液管・ガス管共に必ず市販の断熱材を巻いてください。
(断熱材……耐熱温度100℃以上・厚み下表による)

①断熱材の厚さは、配管のサイズにより選定すること。

配管サイズ	断熱材の厚さ
φ 6.4mm~25.4mm	10mm以上
φ 28.6mm~38.1mm	15mm以上

- ②最上階または高温多湿の条件下で使用する場合は、上記の厚さ以上にする必要があります。
- ③客先指定の仕様がある場合は、それに従ってください。

■真空引き及びバルブ開閉操作は、室外ユニットの据付工事説明書を参照してください。

作業手順



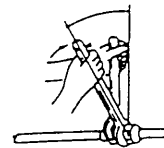
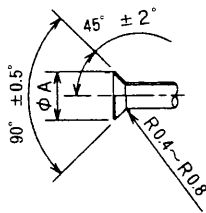
警告

フレアナット飛びに注意! (内部に圧力がかかっています)

- フレアナットは以下の手順で外してください。
 - ①「シュー」と音がするまでナットを緩める。
 - ②ガスが完全に抜けるまで (音がしなくなるまで) 放置する。
 - ③ガスが完全に抜けたことを確認してナットを取外す。

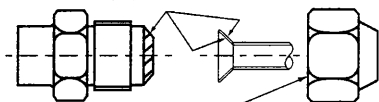
1. 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外す
2. 液管・ガス管をフレア加工し、フレアシート面に冷凍機油 (現地手配) を塗布
3. 冷媒配管を素早く接続
※フレアナットは、必ず、ダブルスパナにて締付けてください。
4. ガス管に付属のパイプカバー②をユニット内部の板金面に突き当てて巻く
5. 液管に付属のパイプカバー③をユニット内部の板金面に突き当てて巻く
6. 付属のバンド④にて、各パイプカバー②③の両端 (15~20mm) を締付け

銅管外径 (mm)	フレア寸法 φA寸法 (mm)	縮付力 (kgf·cm)	縮付角度 (目安)
φ 6.35	8.3~8.7	140~180	60°~90°
φ 9.52	12.0~12.4	350~420	60°~90°
φ 12.7	15.4~15.8	500~575	30°~60°
φ 15.88	18.6~19.0	750~800	30°~60°
φ 19.05	22.9~23.3	1000~1400	20°~35°

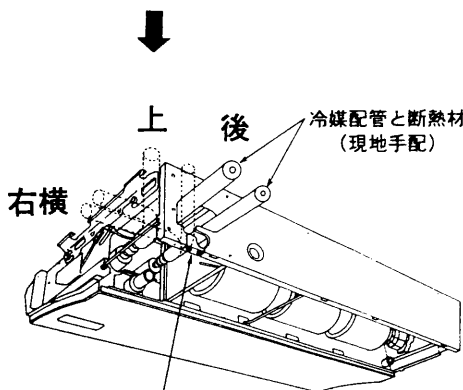


【図13】

フレアシート面全周に
冷凍機油を塗布

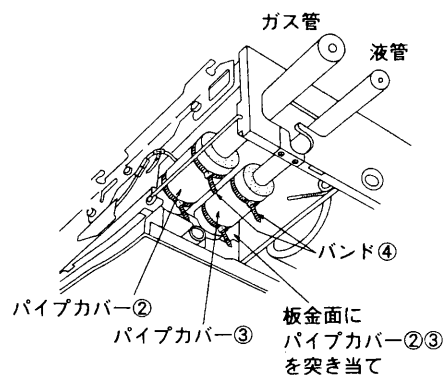


※フレアナットは、必ず本体に取付けられているものを使用してください。

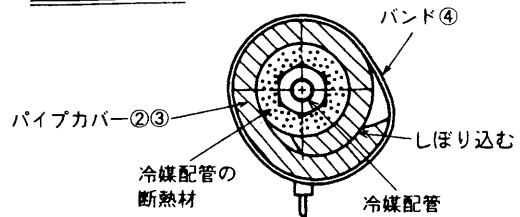


後配管 (ドレン配管含む) の場合、別ピースを取外すことにより作業が容易になります。
※作業完了後は元通りに取付けてください。

※トルクレンチが無い場合、上記方法を目安にします。
フレアナットをスパナで締付けていき、急に締付けトルクが増したとき、一旦止めてそこから更に上表の角度を目安に締付けます。



接続部断面



◆ 冷媒量調整

室外ユニットの据付工事説明書を参照して、冷媒量の調整を行ないます。

6. ドレン配管

- 左配管を行なう場合は、ゴム栓を右側のドレン口にしっかり差し込んでください。
- ドレン配管は下り勾配 (1/100以上) となるようにしてください。
- ドレン配管はイオウ系ガスが発生する下水溝には、直接いれないでください。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水タレが起こらないように、断熱工事を確実にこなしてください。
- 室内を通るドレン配管は、必ず市販の断熱材 (発泡ポリエチレン比重0.03・厚さ、下表による) を巻いてください。

①断熱材の厚さは、配管サイズにより選定すること。

配管サイズ	断熱材の厚さ
φ6.4mm~25.4mm	10mm以上
φ28.6mm~38.1mm	15mm以上

②最上階または高温多湿の条件下で使用する場合は、上記の厚さ以上にする必要があります。

③客先指定の仕様がある場合は、それに従ってください。

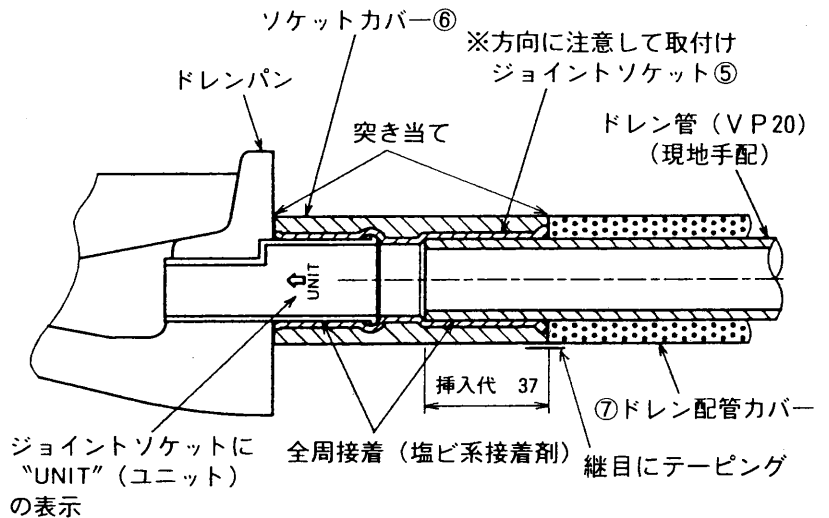
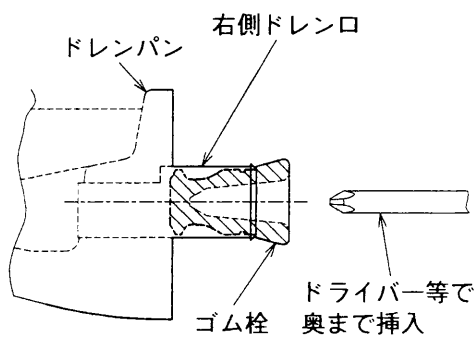
- 施工後、ドレンが排水されていることを、ドレン配管の出口部で確認してください。

作業手順

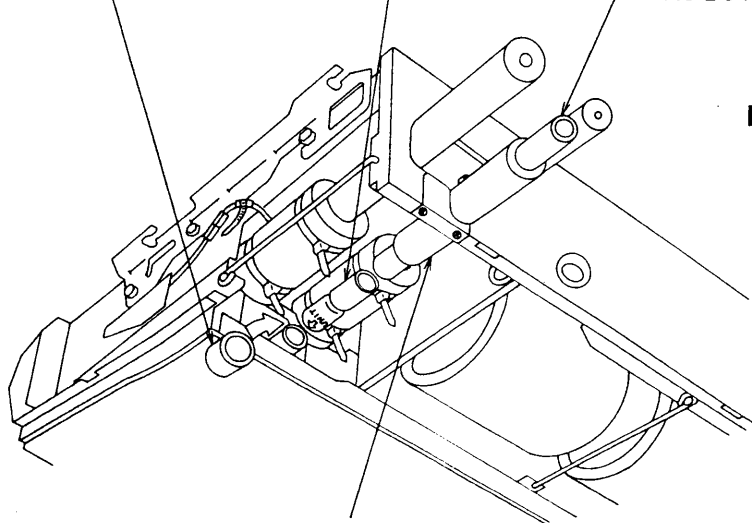
1. 付属のジョイントソケット⑤を本体ドレン口に塩ビ系接着剤で接着
2. 付属のソケットカバー⑥をジョイントソケット⑤に取付け
3. 現地側ドレン配管 (VP20) をジョイントソケット⑤に塩ビ系接着剤で接着
4. 付属のドレン配管カバー⑦を巻く (継目テーピング)
5. 排水性確認

左配管の場合の準備

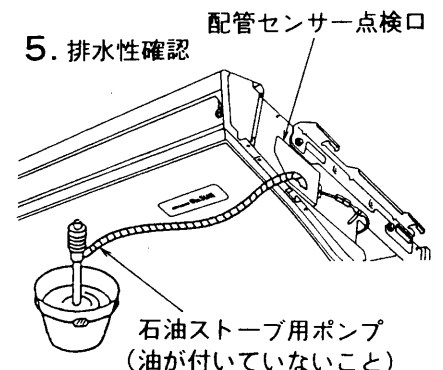
※ゴム栓を左→右側に差し換える



2. ソケットカバー⑥
1. ジョイントソケット⑤
3. ドレン管 (VP20) (現地手配)
5. 排水性確認



4. ドレン配管カバー⑦



※配管センサー点検口からドレンパンに1リットルほど注水

※排水性の確認が完了しましたら配管センサー点検口のフタを元通りに取付けてください。

7. 電気配線工事

電気工事についてのご注意

1. 電気工事は、「電気設備に関する技術基準を定める通商産業省令」「内線規程」及び電力会社の規定に従ってください。
2. 電気配線工事は電力会社の認定工事店で行なってください。

⚠警告

電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」、及び据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。電源回路に容量不足や施工不備があると感電・火災の原因になります。

3. 電源は必ず専用の分岐回路からとり、漏電遮断器を取り付けます。
4. ユニットの外部では、制御回路の電線（リモコン線・伝送線）と電源配線が直接接触しないように施設してください。
5. 配線の接続はネジの緩みのないように確実に行ってください。
6. 天井裏内の配線（電源・リモコン・伝送線）はネズミ等により、かじられ切断する場合があります、できる限り鉄管等の保護管内に通してください。
7. ユニットリモコン用・伝送線用端子盤には200V電源を接続しないでください。（故障します。）
8. 室内ユニットとリモコン及び室外ユニットを必ず配線接続します。
9. D種接地工事は室外ユニットで行ないます。
10. 制御配線は以下の条件からお選びください。

⚠注意

室外ユニット側で確実にアースを行なってください。アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。

制御配線の種類

(1) 伝送線配線

- 伝送線の種類 下記に従って配線設計をお願いします。
- 配線の線径 1.25mm²

システムの構成	単一冷媒システムシステムの場合		複数冷媒システムシステムの場合
伝送線の長さ	120m未満		120m以上 長さに無関係
対象施設例 (ノイズ判定)	住宅及び独立店舗など ノイズ発生がない施設	ビル、診療所、病院、通信事業所など インバータ機器、自家発電機器、 高周波医療機器、無線通信装置など によるノイズの発生が想定される施設	全ての施設
伝送線の種類	VCTF・VCTFK・CVV・CVS・ VVR・VVF・VCT またはシールド線CVVS・CPEVS シールド線 CVVS・CPEVS		

(2) リモコン線

	ユニットリモコン	ネットワークリモコン
線種	無シールド線	10mまでは無シールド線、10mを超える場合は(1) 伝送線と同一仕様
線径	0.5~0.75mm ² 以上	
長さ	100m以内 (100mを超える場合300mまでは1.25mm ²)	10mを超える伝送線最遠配線長制限の200mの内数としてください。(シールド部分は1.25mm ²)

別売外付け電子膨張弁 (PAC-SF39LE) と併用時のご注意

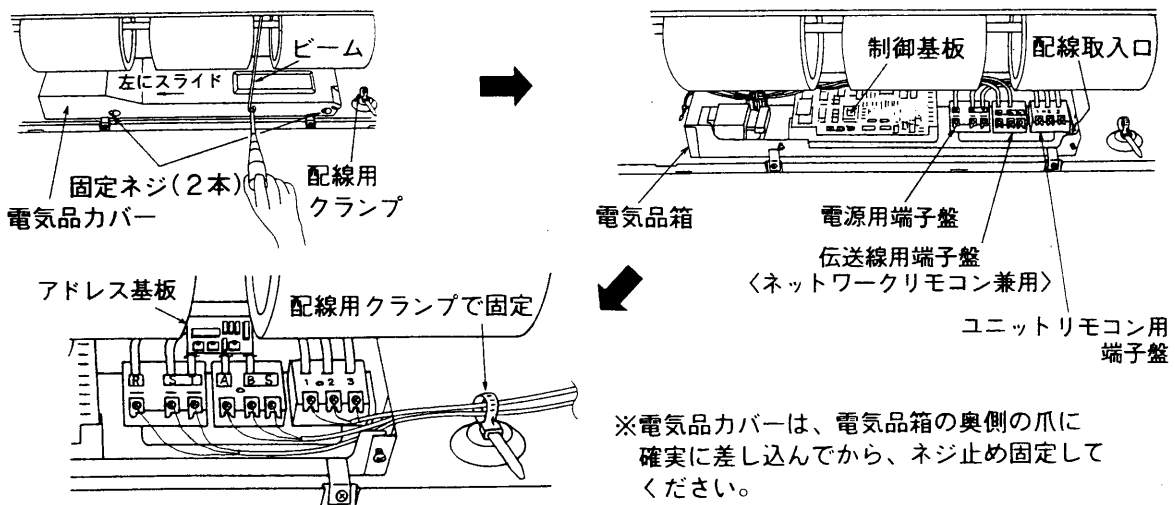
室内ユニットの電源を入れる前に、必ず別売外付け電子膨張弁の取付工事を完了させてください。

※万一、この作業手順を間違えた場合は、正常な運転ができなくなりますので最寄りの三菱電機システムサービスセンター、又は三菱電機ビルテクノサービスにご相談ください。

作業手順

1. 各配線をユニット内に入れる（取入口は⑤ページ図4参照）
2. ビームを取外す
3. タッピンネジ（2本）を緩めて、電気品カバーを左にスライドして取外す
4. 各配線を端子盤に確実に接続
※サービス時を考慮して、電気品箱をユニットの下に降ろすための余裕を各配線に持たせてください。
5. 制御基板及びアドレス基板のディップスイッチ等の設定を確認する
6. 取外した部品を元通りに取付け
7. 各配線を、電気品箱右横の現地配線用クランプで固定

【図15】



※電気品カバーは、電気品箱の奥側の爪に確実に差し込んでから、ネジ止め固定してください。

● 電気配線工事

◆ 電源配線

電源配線は、事前に所轄の電力会社にご相談のうえ、その指示に合った配線をしてください。配線にあたっては、「電気設備に関する技術基準を定める通商産業省令」及び「内線規程」に従ってください。

△ 注意

正しい容量のブレーカやヒューズ以外は使用しないでください。大きな容量のヒューズや針金・銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

● ノーヒューズブレーカ (NF) 又は漏電遮断器 (NV) の選定

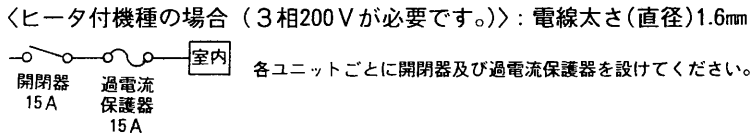
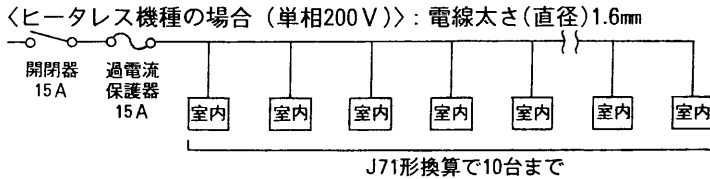
B種ヒューズと開閉器の組合せのかわりにNFまたはNVを選定する場合は下記を使用してください。

B種ヒューズの定格15Aの場合

NF形名 (当社) : NF30-CS (15A)

NV形名 (当社) : NV30-CA (15A)

※漏電遮断器の感度30mA 0.1sec以下を使用してください。



◆ リモコン、室内・室外伝送線の接続 (リモコンは別売です。)

- 室内ユニットのTB5、室外ユニットのTB3を接続します。(無極性2線)
なお、TB5の〔S〕はシールド線用の接続部です。接続ケーブルの仕様については室外ユニットの据付工事説明書を参照してください。

- リモコンの取付はリモコンに付属の説明書により行ってください。

【ネットワークリモコンを使用する場合】

室内ユニットのTB5の〔A・B〕とネットワークリモコンを接続します。(無極性2線)

なお、リモコン用伝送線は10m以内を目安として0.75mm²2芯ケーブルにて接続し、10m以上となる場合は1.25mm²の電線にて中継します。

【ユニットリモコンを使用する場合】

室内ユニットのTB13と、ユニットリモコンを接続します。

(有極性3線ですので端子番号通りに接続します。)

また、グループ制御の場合の室内ユニットの渡り線はTB13の〔2・3〕に接続します。(有極性2線)

リモコンのコードは10m付属されております。10m以上になる場合は1.25mm²の電線、またはケーブルで中継します。

また、別売部品としてPAC-SC35EC (3芯-100m) を用意していますので使用ください。

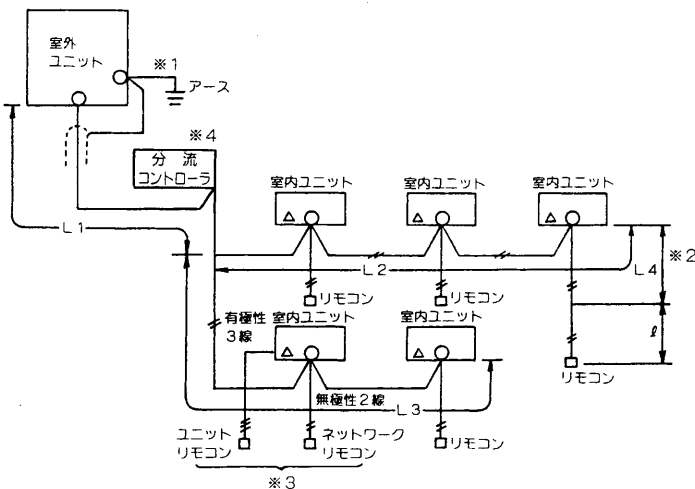
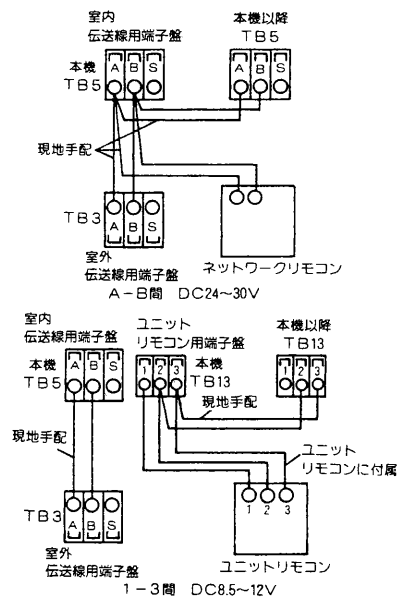
- ネットワークリモコンと、ユニットリモコンの併用はできません。

最遠配線長 $(L_1 + L_2 + L_4 \text{ または } L_1 + L_3)$ 200m以下

$(\text{または } L_2 + L_3 + L_4)$

室内ユニット～リモコン間 (ℓ) 10m以内

- ※1. 伝送線のアースは必ず室外ユニットのアース端子〔E〕を経由して接地してください。
- ※2. リモコン配線が10mを超える場合は、超える部分を1.25mm²の線径にし、〔最遠配線長〕制限200mの内数として加算してください。
- ※3. ネットワークリモコンとユニットリモコンは同一ユニットで併用して使わないでください。また、同一システムでの混在使用もしないでください。
- ※4. 分流コントローラは、冷暖同時ユニットR2、WR2の場合のみ必要です。



● 電気配線工事

◆ アドレス設定（必ず室内・外ユニットの電源を切った状態で操作します。）

※ネットワークリモコンを使用の場合は、アドレス設定が必要です。
 ※ユニットリモコン使用の場合は、このアドレス設定は不要です。

（自動アドレス設定）

アドレス設定は電気品箱内のアドレス基板上的のロータリスイッチにて設定します。

●ロータリスイッチには、アドレス1の位、10の位の設定と分岐口No.・ペアNo.設定用の3種類があります。

①アドレスの設定方法

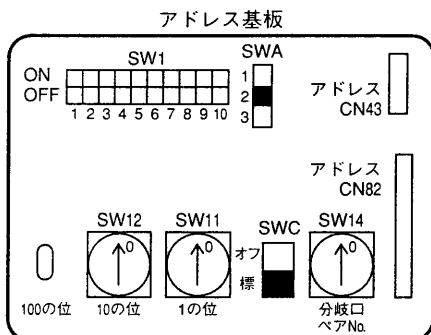
（例）アドレスが“3”の場合 SW12（10の位）は“0”のままとし、
 SW11（1の位）は“3”に合わせます。

②分岐口No.の設定方法（R2, WR2シリーズのみ）

室内ユニットの冷媒配管と接続されている分流コントローラの接続口No.に合わせます。

③ペアNo.の設定方法（R3シリーズ）のみ

2～4台の室内ユニットを同時にサーモ発停とする場合に、それら室内ユニットのペアNo.（0以外）に合わせます。



- 工場出荷時、ロータリスイッチはすべて“0”に設定してありますが、据付時にこのスイッチでユニットアドレスと分岐口No.を設定します。但し、ユニットリモコン使用時はアドレスは自動に設定されます。
- 室内ユニットのユニットアドレスの決め方は現地のシステムによって異なりますので技術資料等を参照のうえ設定します。
- アドレス設定後、製品名板にアドレス記入欄がありますので、油性マジック等でアドレスを必ず記入します。
- リモコンにフィルターサインを表示させない場合（お客様と相談願います）は、アドレス基板のSW1-2をOFFに切換えます。

◆ 高・低天井および別売対応時におけるスイッチの設定

本ユニットはアドレス基板の“SWA(スライドスイッチ)”を設定すれば、風量・風速を調整できます。

据付け場所に合わせて下表よりお選びください。

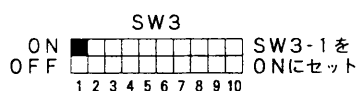
※スイッチの設定をしませんと風が出ない等の問題が発生する場合があります、必ず行なってください。

天井高さ(m)	3.5m	2.8m	2.3m
SWAの設定	3(高天井)	2(標準)	1(低天井)

SWA：高天井・低天井対応〔工場出荷は2（標準）に設定〕据えつける部屋の天井の高さに合せて設定します。

SWC：別売対応（工場出荷時は標準に設定）
 別売高性能フィルターを組込む場合“オプション”側に設定します。

◆ 冷房専用タイプとして使用される場合



冷房専用タイプとして使用される場合、インドア基板上的のディップスイッチSW3-1の設定が必要です。左図に従いセットします。

◆ 室温検知設定変更の場合

暖房時の室内上下温度差が大きくなる事が想定されるため、出荷時は暖房運転時の吸込温度を4deg低くみなして運転（暖房4degアップ）するように設定しています。ビルの基準階等で室内上下温度差が付かないと想定される場合は、SW3-8をONにセットしてください。暖房4degアップ設定は無効となり、吸込温度にて運転を行ないます。

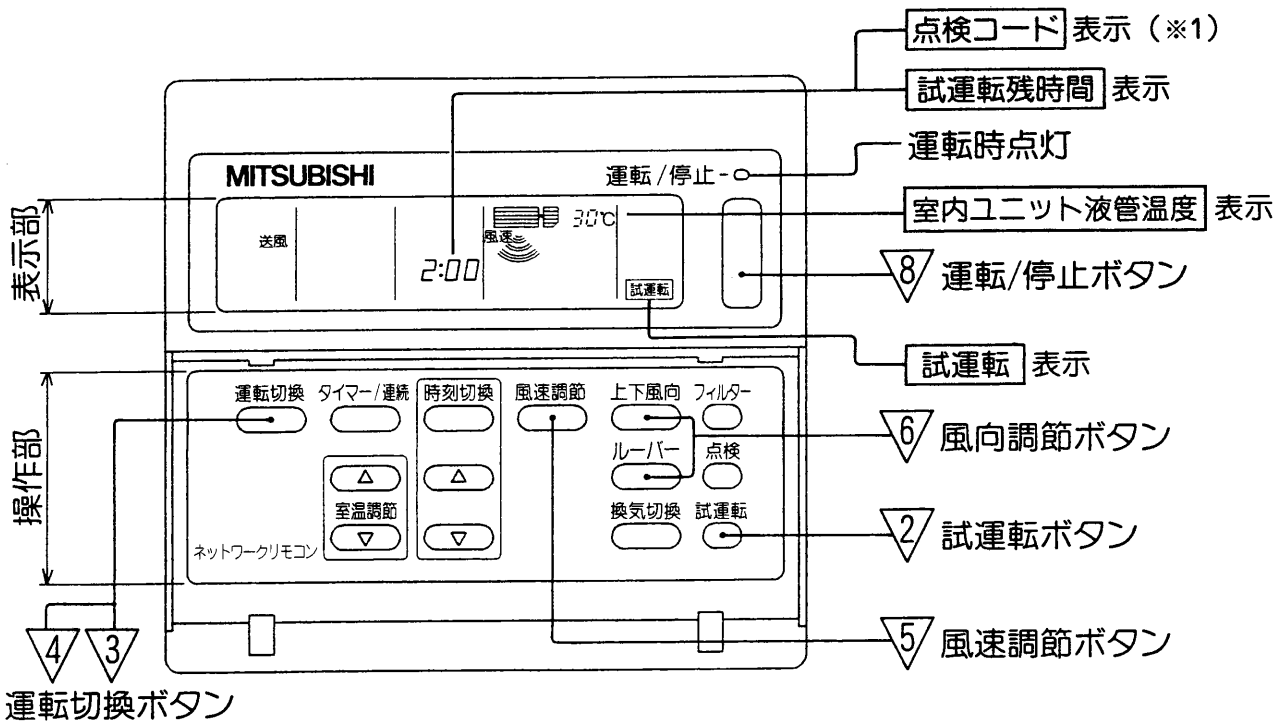
◆ リモコン内蔵センサーにて室温検知をされる場合

リモコン内蔵センサーにて室温検知をされる場合は、アドレス基板上的のSW1-1をONにセットしてください。（暖房4degアップ設定は無効となります）また、必要に応じて、SW1-7、8をそれぞれONにセットすれば暖房サーモOFF時、ファンを停止させることが可能です。

8. 試運転方法 [取扱説明書も一読ください]

- 室内・室外ユニット据付、配管、配線作業終了後、冷媒洩れ、電源、伝送線のゆるみ、極性間違いがないか今一度確認してください。
- 電源端子盤と大地間で500Vメガーで計って1.0MΩ以上であることを確認します。1.0MΩ未満の場合は運転しないでください。
※ユニットリモコン用・伝送線用端子盤の絶縁抵抗測定は絶対にしないでください。

※イラストは、ネットワークリモコンを示します。



操作手順

- 12時間以上前に、室内・外ユニットの電源を入れる
- 試運転** ボタンを2度押す ➡ **試運転** の液晶表示
- 運転切替** ボタンを押す ➡ 風が吹き出すことを確認
- 運転切替** ボタンを押して冷房（または暖房）運転に切り換える
➡ 冷風（または温風）が吹き出すことを確認
- 風速調節** ボタンを押す ➡ 風速が切り換わることを確認
- 上下風向** または **ルーバー** ボタンを押して風向を切り換える
➡ 水平吹き、下吹き等、風向調節が可能か確認
- ➡ 室外機ファンの運転を確認
- 運転/停止** ボタンを押して試運転解除する ➡ 停止
- 確認後は、必ず室内・外ユニットの電源を切ってください

※1. リモコンに点検コードが表示された場合、または正常に作動しない場合は、室外ユニット側の据付工事説明書、または技術資料等を参照願います。

※ 試運転は2時間の切タイマーが作動し、2時間後に自動的に停止します。

※ 試運転中、時刻表示部には試運転残時間を表示します。

※ 試運転中、室内ユニットの液管温度をリモコンの室温表示部に表示します。

※ 風向調節ボタンを押した時、機種により“この機能はありません”の表示がリモコンに表示されますが故障ではありません。

9. 高圧ガス明細書

本製品は、高圧ガス保安法に基づき、冷媒ガスの圧力を受ける部分の材料・構造を遵守し、圧力試験が実施されています。本製品の保安上の明細は次の通りです。

※冷媒ガスの圧力を受ける部分の部品交換修理は資格のある事業所に依頼されますようお願いいたします。

機器形式名	冷 媒	設計圧力(MPa)		配 管	
		高 圧	低 圧	管外径(mm)×長さ(mm)×列数×段数×個数	主な材料
PCFY-J 45GM(H)-A1	フロン22	3.0	1.3	φ7.0×758×3×12×1	C1220T-OL
PCFY-J 56GM(H)-A1	フロン22	3.0	1.3	φ7.0×758×3×12×1	C1220T-OL
PCFY-J 71/J 80GM(H)-A1	フロン22	3.0	1.3	φ7.0×1065×3×12×1	C1220T-OL
PCFY-J 90GM(H)-A1	フロン22	3.0	1.3	φ7.0×1065×3×14×1	C1220T-OL
PCFY-J 112GM(H)-A1	フロン22	3.0	1.3	φ7.0×1065×4×14×1	C1220T-OL
PCFY-J 140GM(H)-A1	フロン22	3.0	1.3	φ7.0×1372×3×14×1	C1220T-OL
PCFY-J 160GM(H)-A1	フロン22	3.0	1.3	φ7.0×1372×4×14×1	C1220T-OL

